

## Injury Alert (傷害速報)類似事例

液体芳香剤による誤嚥性肺炎 (No.106 アロマディフューザーの液を誤嚥したことによる化学性肺炎の類似事例 3)

事例	基本情報	年齢：0歳 8か月 性別：男児 体重：7.4kg 身長：不明
	家族構成	父、母、姉
	発達・既往歴	特記事項なし、つかまり立ちや伝い歩きが可能であった
臨床診断名		誤嚥性肺炎
医療費		入院 124,930 円
原因対象	対象名称	液体芳香剤（芳香剤が入った瓶にリードをさして使用するもの。パッケージには石油2類 火気厳禁と書いてあった。）
	入手経路 使用状況	友人の結婚式での記念品
発生状況	発生場所	自宅
	周囲の人 周囲の環境	母と一緒に。母は転居準備のため荷物整理をしていた。父は仕事で不在であった。
	発生年月日	2015年6月X日(木) 午前10時30分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	普段は本商品を手の届かないところに置いていたが、受傷当日は転居準備のために棚の上の手の届くところに置いてしまっていた。棚は本児が伝い歩きに使っているものであった。また本受傷時はリード（棒）をさしていない状態であった（アロマディフューザーのリードをさしていない状態のこと）。 上記のような状況のなか、本児が棚に手を伸ばして本商品の瓶を倒し、中身がこぼれて顔にかかった。

医療機関受診時  
以降の治療経過  
転帰

受傷後 30 分程度で医療機関を受診した。受診時、顔色不良と努力呼吸を認め、酸素を開始した。意識障害（GCS E1V1M1）も認めた。体温 36.9 度、SpO<sub>2</sub>（酸素 5L）98%、その他のバイタルサインは不明であった。呼吸音はやや減弱していたもののラ音を聴取しなかった。呼吸状態のわりに意識レベルが悪く入院とし、抗生剤とステロイドの点滴を行った。受傷後 3 時間程度で意識障害は改善し、受傷後 5 時間には室内気で SpO<sub>2</sub> 99% となった。入院後の体温は 37.5 度程度が最高で、高熱はみられなかった。一方、胸部単純 X 線写真では入院当日には肺炎像を認めなかったが、翌日には両側に肺炎像を認めた。入院中、呼吸状態は落ち着いており、入院 5 日目の胸部単純 X 線写真で浸潤影の改善をみとめ、同日退院となった。

退院後転居したため、その後の詳細な経過は不明である。ただ最近当地に戻り受診記録があったが、その記録では明らかな後遺症は見受けられなかった。

（備考欄）

先日、injury alert に No.106 アロマディフューザーの液を誤嚥したことによる化学性肺炎の報告があり、本事例は 6 年前の事ではあるが、貴重な類似例であり報告することとした。